

令和7年度第1回農林水産技術会議評価専門委員会議事要旨

場 所：農林水産省農林水産技術会議事務局委員室（Web 会議併用）

日 時：令和7年8月6日（水）13:00～18:00

出席者：

（専門委員）※五十音順、敬称略

犬伏 和之	東京農業大学応用生物科学部 教授
大黒 俊哉	国立大学法人東京大学大学院農学生命科学研究科 教授
佐藤 拓郎	株式会社アグリーンハート 代表取締役
平 勇人	株式会社ファームノートデーリィプラットフォーム 代表取締役
東海林 園子	オイシックス・ラ・大地株式会社 経営企画本部グリーン戦略室 室長
外村 玲子	中村合同特許法律事務所 弁護士
西野 和美	国立大学法人一橋大学大学院経営管理研究科 教授
古谷 千絵	ジャーナリスト
黛 佐予	有限会社妙義ナバファーム 取締役
水落 隆司	三菱電機株式会社 執行役員 開発本部
良永 知義	国立大学法人東京大学大学院農学生命科学研究科 特任教授

（事務局）

農林水産技術会議事務局 東野研究総務官
研究企画課 尾室課長、塔野岡研究調整官、横田課長補佐

議 事：

1. 研究制度の事前評価

- （1）スマート農業技術活用促進総合対策のうちスマート農業技術の開発・供給促進事業のうち先行的研究開発（新規）
- （2）スマート農業技術活用促進総合対策のうちスマート農業普及のための環境整備のうち農林水産データ管理・活用基盤強化（拡充）
- （3）「知」の集積と活用によるイノベーション創出推進事業（新規・拡充）
- （4）安全な農畜水産物安定供給のための包括的レギュラトリーサイエンス研究推進事業（新規・拡充）

2. 委託プロジェクト研究課題の事前評価

- （1）戦略的農林水産研究推進事業のうち食料安全保障強化研究（新規）
- （2）戦略的農林水産研究推進事業のうち輸出拡大研究（新規）
- （3）戦略的農林水産研究推進事業のうち環境負荷低減対策研究（新規）
- （4）戦略的農林水産研究推進事業のうち気候変動適応研究（新規）

要 旨：

（主な意見）

1. 研究制度の事前評価

（1）スマート農業技術活用促進総合対策のうちスマート農業技術の開発・供給促進事業のうち先行的研究開発（新規）

- ・高専や職業能力開発大学校等のシーズを活かしスマート農業技術開発を加速化させる、この制度の重要度は非常に高い。
- ・人材を発掘して育成するという点を十分にアピールいただきたい。
- ・社会実装への道筋については、組織間・制度間の連携を見据えた上で進めていただきたい。
- ・高専、職業能力開発大学校が有する優秀な技術シーズの実用化に向けた仕組みづくりに留意いただきたい。
- ・アウトプット目標は、実施件数とは別の目標を設定していただきたい。

（2）スマート農業技術活用促進総合対策のうちスマート農業普及のための環境整備のうち農林水産データ管理・活用基盤強化（拡充）

- ・農業生産性の向上のための圃場などで得られたデータを管理・活用するための基盤整備として非常に重要であり、国が先導して民間企業などと連携する必要がある。
- ・データを活用した農業の普及がいまだ不十分である原因を調べ、把握した上で進めていただきたい。
- ・アウトプット目標や進捗管理体制などを明確にしながら進めていただきたい。

（3）「知」の集積と活用によるイノベーション創出推進事業（新規・拡充）

- ・農林水産・食品分野のイノベーション創出を推進するための重要な取組である。
- ・売上げではなく、事業価値の向上といった視点で評価できるよう配慮いただきたい。
- ・顧客の増加や市場における需要喚起など、社会実装の確度が上がるような支援の仕組みも考慮して進めていただきたい。
- ・スタートアップ支援では、他省庁の先行事例を十分に参考にした上で、進めていただきたい。

（4）安全な農畜水産物安定供給のための包括的レギュラトリーサイエンス研究推進事業（新規・拡充）

- ・国内における畜水産物の安定生産・供給から食品としての安全性、また海外からの不正持込み畜肉への対応技術の開発など、いずれも重要かつ緊急度の高い課題であり、国が先導して推進すべき事業である。
- ・アウトプット目標の設定について、達成の可能性が明確に判断できるよう検討いただきたい。
- ・他省庁の先行事例も十分に把握した上で実施いただきたい。
- ・予防的な対応につながるような取組も進めていただきたい。

2. 委託プロジェクト研究課題の事前評価

(1) 戦略的農林水産研究推進事業のうち食料安全保障強化研究（新規）

- ・食料安全保障上、また国土保全上、非常に重要な課題であり、研究の必要性が高い。
- ・二期作の研究では、効率的な研究推進の観点から、地域農試での先行研究など、既存の研究を拡充するといった対応が望ましいのではないかと。また、実施に当たっては全国一律ではなく、地域を重点化する等の濃淡を付けて進めていただきたい。
- ・地中埋設設備のインフラ整備に関しては、他省庁での先行事例も十分精査した上で、連携の可能性も含め検討を進めていただきたい。
- ・アウトプット目標については、マニュアル作成にとどまらず、コスト評価を含め、実装につなげるという点も視野に入れて進めていただきたい。
- ・食料安全保障の強化という観点からは、国内資源の利活用という視点も留意していただきたい。

(2) 戦略的農林水産研究推進事業のうち輸出拡大研究（新規）

- ・高付加価値農産物の栽培・加工技術の開発を通じて、輸出拡大への貢献が期待できる内容であり、研究の重要性は高く、また国が主導して推進すべきである。
- ・政府として掲げる輸出額目標を達成する上でも、マーケティング的な視点から品目を検討いただきたい。また、品目については生産者のニーズを把握した上で検討いただきたい。
- ・研究目標である輸出拡大に対応したアウトプット目標を設定するよう検討いただきたい。
- ・マニュアル作成にとどまらず、その活用を見据えた目標となるように検討いただきたい。

(3) 戦略的農林水産研究推進事業のうち環境負荷低減対策研究（新規）

- ・農林水産業に起因する環境負荷低減を図るための重要課題であり、社会的な意義も非常に高く、国が中心となって推進すべきである。
- ・海草・海藻の育種については、高水温への適応も明示した上で実施することが必要と考える。
- ・海藻・海草類の研究におけるアウトプット目標は、育種技術の開発であるものの、最終的に現場で炭素吸収させるというプロセスも見据えて研究開発を進めていただきたい。必要に応じて、ほかのプロジェクトとの連携も見据えて進めていただきたい。

(4) 戦略的農林水産研究推進事業のうち気候変動適応研究（新規）

- ・本課題で取り組む害虫の発生時期等の予測や管理技術の開発は、気候変動への的確な対応・適応に資する課題であり、ニーズ、科学的・技術的意義はいずれも明確であり、重要性は高い。
- ・例えば、稲の高温耐性品種の育成であっても、生産基盤と一体で解決する必要があることから、気候変動適応における研究、技術開発においても、作物だけでなく、現場の基盤整備とも連携し実施していただきたい。
- ・アウトカム目標については、中間、最終それぞれの段階において、より適したものに修正することも検討していただきたい。